

古都を守る税

私立同志社女子中学校三年四組 藤本 更紗

京都市に、私は住んでいます。京都市は、世界の旅行誌や口コミサイトの人気観光都市ランキングで上位に挙がる都市です。京都市観光協会が行う京都観光総合調査によると、平成二八年度の宿泊者数は二一五〇万人、うち外国人は六三二万です。古都京都が観光都市としてのブランド力を持ち続けるためには、どうしたらよいのだろうか。

京都市は、固定資産税が非課税となる神社や仏閣が多く、また景観規制が厳しいため高層建物が少ないです。そのため、市にとって一番の財源になる税が他都市と比べて少なくなっています。これを解決するべく、京都市が「宿泊税」を今年一〇月から導入することが決まっています。国だけでなく地方自治体も、課税自主権に基づき条例で新税導入を行うことができるのです。宿泊税は、法定外目的税の一つで、徴収された税金の使い道が一定の政策にあてられることがあらかじめ明確に指定されています。京都市は、「国際文化

観光都市としての魅力を高め、観光の振興を図る政策に要する費用にあてることを目的としています」と決めました。

宿泊税はすでに東京・大阪で始まっていますが、京都市はこれらと異なる点があります。一つは、違法民泊を含めた全施設が対象となっている点、もう一つは、宿泊金額ごとの税額設定で非課税を設けず、二都市と比べて高額になっている点です。民泊については、京都市は厳しく向かい合っています。私は夜遅

く住宅街で、大きなスーツケースを持ちながら、スマホを見て歩く外国人グループを見たことがあります。近くにホテルなど絶対にならない場所のため、民泊に違いないでしょう。テレビでは、マンションでの違法民泊で、オートロック解錠、ゴミ分別が問題だと指摘していました。外国人観光客はそれが悪い事だと知らずにしてしまっている部分も多いと思います。全ての観光客に安全な宿泊所を提供できるよう、多くの違法民泊を適正民泊に変え

ていければ、観光客も市民も安心です。全ての宿泊者に税金を支払ってもらうことは、公平性を保ち、またより多くの税収を確保するためです。観光客の急増に対応するため、どれだけ多額の費用がかかるのか。バスの路線の多さや、時刻表の細かさには利便性を感じますが、実際は多くのバスと自家用車で市内は渋滞だらけです。金閣寺近くのバス停では、バス待ちの観光客が歩道に大行列を作っている光景が当たり前になっています。観光客に

も市民にも、交通の快適化は必要です。私が社会人になった時、豊かな京都市で過ごすことができているだろうか。責任感のある納税者になっているだろうか。この宿泊税によりこの先、京都市の姿がどう変化するかは、私自身の目で見て、考え続けていきたいと思う。日本中、世界中の「京都ファン」のために。